

ティーンチャーズ・ライブラリーが道徳の授業で活用されています！

小学校に続き中学校でも、2019年度から「特別の教科 道徳」が始まりました。「主たる教材として、検定教科書を使用すること」とされた一方、評価に際しては、「他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」を重視するべきだとされ、先生方は授業案作りや効果的な教材探しにいろいろと苦心されていることと思います。

ティーンチャーズ・ライブラリーのラインアップには、この「他者の考え方や議論に触れる」ことや、「多面的・多角的な見方へと発展」させることに役立つ番組が多数あり、これまでも道徳の授業で活用されています。映像教材は、登場人物が肉声で自分の体験や感情を語ることで、強い情動性で子供たちの心を揺さぶり、「主体的・対話的で深い学び」への導きとなりえます。教科書と関連させながら視聴させることで、より充実した授業ができるのではないのでしょうか。

道徳の授業に活かせる番組と、実際に活用した先生方の感想をご紹介します。

プロフェッショナル 仕事の流儀 心を込めて、 当たり前の日常を ビル清掃 新津春子



中学校

本学年では「誠実」という学年目標を掲げていますが、新津さんの生き方から誠実の意味がしっかりつかめてきた気がしています。また、中国残留孤児についての学習にもつながりました。

教科書に載っている『私は清掃のプロになる』を学習後、学年で一斉にDVDを視聴しました。教科書だけでは分からなかった部分を学習できました。視聴後すぐに清掃活動を行いました。清掃に取り組む子供たちの姿勢が明らかに違いました。

翌日の清掃から、「新津さんに負けない」とつぶやきながらトイレを拭き上げる姿も見られました。

生徒たちは、見た目の華やかさではなく本当のこつこつよさを感じたようです。

高等学校

人間にしかできないってこういうことなんだと思った。

課外授業 ようこそ先輩 戦争を学ぶ 命を考える 国境なき医師団・貫戸朋子



中学校

「公正、公平、社会正義」を主題に据え、多くの命を救うことの大切さ、苦労を実際に体験した貫戸さんの話を聞き、強いインパクトを感じ、印象に残る道徳の授業となった。授業の展開も、DVDを参考に、ディベート形式で、活発な意見交流ができた。

道徳地区公開講座で、教科書を使い、DVDを一部見せた。映像の力は大きく、生徒には文章だけでは感じとれない緊迫感を伝えることができた。それぞれ意見が違うこと、相手の意見を聞くことの大切さも理解したようだった。

高等学校

倫理的な問題提起に対して臆することなく活発に意見を言い合う小学生の姿が印象的で、触発された生徒が多かったです。

ETV特集 小さき命のバトン



中学校

「命のバトン」という言葉から食物連鎖を想像する生徒が多く、見終えた時「こんな命のバトンがあるのか」と驚いていた。妊娠から出産、成長するまでに多くの人の思いがあるのだということに生徒が気付けるすばらしい番組だった。

定時制高等学校

普段はドキュメンタリー番組をほとんど見ない生徒が多いので、60分という視聴時間が長いような気がしていたが、実際には熱心に最後まで見ている生徒が予想以上に多かった。

「このビデオを見せてもらって本当に良かった」という意見を聞くことができた。

その時 歴史が動いた 6000人の命を救った 外交官～杉原千畝ビザ大量発給決断の時～



中学校

8/6に急速道徳の授業をとられ、テーマに選んだ。この番組は理路整然と時代背景や時間の流れが理解でき、緊迫感や不安、そして決断が語られる中で、生徒の心も一緒に動いている様子だった。このDVDで初めて杉原千畝の功績を理解できた生徒が多かった。

彼が行った「国際貢献」について生徒たちがより深く理解するには、教科書に掲載されていることだけでは不十分だった。「ただ目の前の命を救いたい」という、相手を大切に思う気持ちが国際貢献につながることを深く理解させることができた。

NHKスペシャル 僕はなぜ止められなかった のか?～いじめ自殺・元同級生の告白～



中学校

いじめを題材としたものは、「いじめは絶対してはならない」という視点で指導を展開するものが多いですが、「もし親友がいじめられていたらどうすればよいか」という切り口から考えさせることができる点も、全ての児童生徒に自分のこととしてとらえさせやすい番組だと感じました。

いじめはいけないという当たり前のことで終わるのではなく、傍観者を作らずどうやって寄り添えるのか、手を差し伸べられるのかを考えた。中1にしては内容が少し高度かもしれないと思っていたが、大変よく見て発言していた。

探検バクモン ハンセン病を知っていますか



小学校

ハンセン病の差別と隔離が国の方針によって行われてきたことを、『もののけ姫』から考えてきた。ハンセン病という言葉すら知らなかった子供たちが、資料を読み解いていく中で、差別の怖さと国の過ちを考えることができた。DVDで、その現実や回復者の方の話を聞いたことで、一層学習が深まったように思う。

高等学校

平沢さんと爆笑問題のインタビューは特に衝撃が大きく、「もっとハンセン病について、療養所の今について知りたい」「なぜ差別は起きるのか」といった感想が見られました。その後それぞれの関心に基づき調べ学習を行い、この世から差別をなくすためには何が必要なのかを考えるディスカッションを行う予定です。

道徳ドキュメント 人とつながる 男らしさ、 女らしさって何?



小学校

初任の教員4人をDVDで指導しました。教員の理解があるかどうかで生徒の生き方が変わってしまうと話し合いました。どの先生も「目から鱗です」と言うほど、インパクトのある動画です。

中学校

20人に1人の割合で自分の性に素直になれない人がいるという事実に生徒たちは驚いていた。たくさん考えさせられる場面があり、生徒たちも必死になって考えていた。

授業前は、制服の交換等は生徒の中で笑いが起きるかもしれないと予想し、そこからの授業展開も考えていたが、良い意味で予想を裏切られ、ほとんどの生徒が真剣に考える姿が見られた。この題材は、生徒よりも教師の方に偏見が多いと感じた。